



京都造形芸術大学 京都芸術劇場

# 猿之助の世界

スーパー歌舞伎 ヤマトタケルトークショー

市川右近 (歌舞伎俳優) vs 毛利臣男 (京都芸術劇場芸術監督)

2005年5月18日 水 開場：18時30分  
開演：19時 (入場無料)

20世紀から21世紀にかけて再びジャポニスムの風が吹き始めました。その一つの要因に、歌舞伎をベースに新しい舞台芸術を創造する市川猿之助の活動があります。1986年にスタートをきったスーパー歌舞伎、梅原猛原作、市川猿之助脚本・演出・主演『ヤマトタケル』はあまりにも有名です。本年、師匠の志をしっかりと受け継ぐ若い弟子達が新しい『ヤマトタケル』に取り組んでいます。その1人、本公演でヤマトタケルに挑んでいる市川右近と毛利臣男が映像や衣裳を紹介しながら「猿之助の世界」を熱く語ります。

会場：京都芸術劇場 春秋座 (京都造形芸術大学内) 協力：松竹株式会社 松竹衣裳株式会社 株式会社おもだか

# 「ヤマトタケル」あらすじ

初演 1986年 原作 梅原猛 脚本・演出・主演 市川猿之助

兄皇子である大碓命（おおうすのみこと）を殺めてしまった小碓命（おうすのみこと）は、父である帝（すめらみこと）の命によって過酷な熊襲征伐に追いやられるが、女の身なりで敵地に入り込むと言う突飛な奇襲作戦により、勝利をおさめる。

しかしながら、大いなる戦勝とは裏腹に心の喪失感は大きく、その埋め合わせとして、敵将の名であるタケルを名乗るようになる。ヤマトの国のタケル。即ち、ヤマトタケルの誕生である。

大和の国に戻ったタケルは、帝より強引に兄橘姫（えたちばなひめ）を妃としてあてがわれ、今度は蝦夷征伐の難題を申しつけられる。しかも、許された伴は吉備の国のタケヒコただ一人である。

心を痛めつつも出陣したタケルは、自分の良き理解者であり叔母である伊勢に住む倭姫（やまとひめ）の所に立ち寄り、天下の宝刀・天の村雲を授かる。

伊勢には、弟橘姫（おとたちばなひめ）が身を寄せていた。タケルに恋心を寄せる弟橘姫が…。姫は、タケルに同行するが、航路の途中、怒り狂う海の神を鎮めるために、周りの制止も聞かず自ら荒波へと身を投じる。

その甲斐あって、タケルは無事に荒海を乗り切り、蝦夷征伐も果たすこともできて、懐かしのふるさと・大和への帰路につく。

途中、尾張の国造の館に立ち寄るが、今度は、国造の娘・みやづ姫と祝言を挙げることになってしまう。しかも、そこには又しても帝の命が待っていた。伊吹山の山神（いぶきやまのやまがみ）を退治するという大きな命が。

散々戦勝を上げ、一刻も早く大和へ帰りたいと願うタケルには、油断があった。倭姫から授かった剣をみやづ姫に預けたまま、戦いに出向き、深い痛手を受けて、命を落としてしまう。

美しき国・大和に戻ることを夢見ながら…。天翔るタケル。一目たりとも見ることもなく、別れを強いられてしまった我が子や兄姫、タケヒコらに思いを馳せながら。その身を白鳥に化身させて空を飛ぶ…タケルの姿があった。

## ■お問合せ:

京都造形芸術大学舞台芸術研究センター  
〒606-8271京都市左京区北白川瓜生山2-116  
tel:075-791-9437 fax:075-791-9438 e-mail:info@k-pac.org



市川右近（歌舞伎俳優）

1963年日本舞踊家元の長男として大阪に生まれる。1972年京都南座『天一坊』で初舞台。この時猿之助の『吉野山』狐忠信を見て歌舞伎の魅力にとりつかれる。1975年1月大阪新歌舞伎座『二人三番叟』の附千歳で猿之助の部屋子となり市川右近を名乗る。小学校卒業と同時に単身上京、猿之助の下で学業と舞台修行の日々をおくる。大学卒業後は歌舞伎一筋に修行を続け、常に若さとパワー溢れるシャープな演技を見せ、口跡も爽やか。「二十一世紀歌舞伎組」公演では、旗揚げより主役を演じ中心的役割を担っている。また猿之助の演出作品では常に演出助手を務め師匠を助けている。

近年では歌舞伎以外の作品にも出演し、特に『子午線の巳』『残菊物語』『ピルグリム』他好演。また朗読劇の演出・主演、オペラの演出と多方面に活躍している。

本年3月よりのスーパー歌舞伎「ヤマトタケル」では、段治郎とダブルキャストでヤマトタケルを務めている。

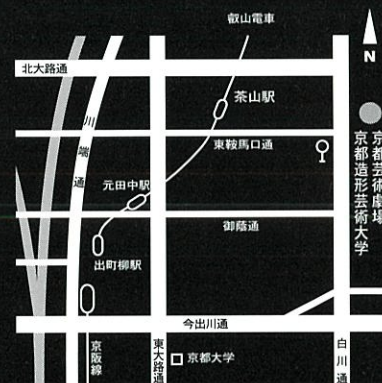


毛利臣男（京都芸術劇場 芸術監督）

空間と動きの相互関係を多様なメディアを通して創作し、あらゆる人とその環境を包括するアーティスト。

1984年パリ シャトレ劇場での市川猿之助演出、オペラ「ル・コックドール」の衣裳デザインを皮切りにスーパー歌舞伎全作品での衣裳・装置デザイン（1996年カグヤ以降）やミュンヘン スターツオーバー劇場でのオペラ「影のない女」等、多くの市川猿之助作品に参加しダイナミックで美しい衣裳と舞台美術が国内外で高い評価を受ける。内外を問わず多くのオペラやバレエ、能、現代劇などの美術、衣裳デザインや展覧会の美術監督としても多才な才能を発揮している。また、文化服装学院および京都造形芸術大学において客員教授を務め、仮面舞踏劇「モーリ・マスク・ダンス」や空間展「モーリ・色彩空間」、「毛利の服」での活動を通して、学生と共に自身が提唱する「コラボレーション美学」という新しい試みに取り組んでいる。

本年4月より京都造形芸術大学 京都芸術劇場の芸術監督を務めている。



## ◆会場アクセス

- ◇JR「京都」駅、京阪「三条」駅、阪急「河原町」駅から  
→京都市バス5番「岩倉」行き乗車、  
「上終町・京都造形芸大前」下車（京都駅から約50分）
- ◇市営地下鉄「丸太町」「北大路」駅から  
→京都市バス204循環に乗車、  
「上終町・京都造形芸大前」下車（約15分）
- 京阪電鉄「出町柳」駅から  
→叡山電鉄に乗り換え、「茶山」駅下車、徒歩10分。  
→タクシーで10分
- ◇駐車場はございません。